



いざという時の為に今からできる 防災への備え

突然発生する台風や地震などの災害にそなえ、普段からどのような準備をすればいいのか、いざ災害が起きたときにどこへ避難すればよいのかなど、ご自身や家族を守るためにも、いま必要なことをぜひ知っておきましょう。

みんなで話しましょう!

港区の防災アドバイザー
多田さん

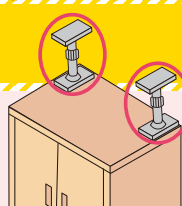


特に寝室

備える

備え1 家具の固定で安全確保を

家具の固定が自身と家族の命を守ります。家具類の配置の見直しを含めて家具の転倒を防止しましょう。



備え2 日常の備蓄品でいつでも対応

災害はいつ、どんな時に起きるかわかりません。いろんな活用シーンを想像してみましょう。



防災ポーチ・防災ボトル

外出時に被災した際、最低限必要な物を常備。普段持ち歩くカバンに無理なく入るサイズにしましょう。

非常時持ち出しバック

自宅で被災した際、避難所へ避難するときにもすぐに移動できるように事前の準備をしましょう。

ローリングストック

非常食など、期限切れしないように日常で食べながら、新しい非常食がある状態にしましょう。

備え3 家族と避難ルールを話し合いましょう

家族で防災について学んだり、非常時の連絡手段や集合場所、津波襲来時の津波避難ビルを決めておきましょう。

地区防災計画

地域ごとの地区防災計画もあります!



動画で見る 避難のポイント

港区住みます芸人「ガチャガチャ」による、動画でいざ地震や津波が来たときの避難行動や注意を明るく楽しくご紹介しています。



じしん



つなみ

知る

知る1 水害ハザードマップ

港区は地震による津波と台風による高潮等のリスクがあります。自宅付近の浸水想定について知っておきましょう。



南海トラフ巨大地震などが起きた際の津波、高潮や内水氾濫した時の港区における浸水の深さを知ることができます。自宅付近の浸水想定について知っておきましょう。

詳細はこちら



※上記図は、マグニチュード9.1程度の地震が発生し、なおかつ満潮時で最大クラスの津波による浸水が起きた場合(防潮堤の沈下や防潮施設の閉鎖状況を考慮)

知る2 避難所について知っておくこと

一口に避難所と言っても、種類によって役割があります。どんな時にどの避難所に避難するのかイメージしておきましょう。

状況に合わせて決めましょう



● 津波をともしなう地震の場合 ●



津波避難ビル



災害時避難所
(3階以上の建物の場合)

● 津波をともしなわない地震等 ●



災害時避難所



広域避難場所・一時避難場所

家が被災した場合は 災害時避難所へ

近くで大規模な火災がない場合など自宅で安全が確保できる場合は自宅で待機(在宅避難)しましょう

または
頑丈な建物の3階以上に避難

問合せ 協働まちづくり推進課(安全・安心) ☎ 6576-9881 FAX 6572-9512

地域の防災活動に参加する

各地域で地域活動協議会が主催する防災学習会や避難所開設訓練を実施しています。積極的に地域の防災活動に参加しましょう。

● 地域の防災活動を支える地域防災リーダーの役割

災害時において防災に関する知識や技術を活用し住民を率先して組織的な防災活動を行っています。

ユース防災リーダー(30歳以下)を募集しています

若い世代のリーダーを求めています。

若者の視点とスキルで地域防災活動の取組みを情報発信する。そんな仲間になっていただけませんか。まずは下記までお問い合わせください。

問合せ 協働まちづくり推進課(安全・安心) ☎ 6576-9881 ✉ tg0002@city.osaka.lg.jp



ズバリ!

まとめの一言

災害はいつ発生するかわかりません。
日常の中の備えを意識しましょう

水防団員の募集～水害から地域を守る～

津波や高潮などによる被害から地域住民の生命・財産を守るとてもやりがいのある活動です。水害に備え日頃から、防潮鉄扉の巡視や訓練に取り組んでいます。興味のある方は下記の問合せ先まで。

対象 港区内に在住または勤務の18歳以上の方

問合せ 淀川左岸水防事務組合 港区防潮本部 ☎ 6572-2300



▲ 公式YouTubeはこちら